



CHARTERED IN
NOVEMBER 21, 1955

— 主 題 —

国際会長 「Values, Extension and Leadership」
 アジア会長 「変化をもたらそう」
 東日本区理事 「変化を楽しもう」
 北海道部部长 「心を高めよう」
 ワイズダムの繫りを友情の輪に」
 札幌クラブ会長 「楽しみを持って 喜びを持って」

THE SERVICE CLUB OF YMCA
 THE INTERNATIONAL ASSOCIATION OF Y'S MEN'S
 THE Y'S MEN'S CLUB OF SAPPORO

2021年5月

札幌クラブ

EF / JEF (Endowment Fund / Japan East Y's Men's Fund)

Jacob Kristensen (デンマーク)
 David Lua (シンガポール)
 板村 哲也 (武蔵野多摩)
 中村 義春 (十勝)
 宮崎 善昭 (札幌)

札幌クラブ役員
 会 長 宮崎 善昭
 書 記 柴田 伸俊
 会 計 秋葉 聡志
 直前会長 伏木 康

今月の言葉

「世の人が元気をなくしており、社会の発展が停滞している。いままでの仕事を守って間違いなくするよりも、さらに大きな計画をして発展させ、世界と競争するのがよいのだ」(渋沢栄一) 伏木 康選

コロナの後に 札幌ワイズメンズクラブ会長 宮崎 善昭



コロナ禍のパンデミックの後、縮減する世界について様々な憶測があります。ワイズ関連では、ノア・ハラリの考え方が紹介されていました。ノア・ハラリは「ホモ（人間）・デウス（神）」の著者で、パンデミックを克服し混沌の後、人間 AI と協働して自然を克服し、最後は神にまでなるといふなかなかセンセーショナルな意見です。

逆の考え方もあります。私はどちらかという人間は神にはなれないと考えるのでこの逆の考え方に近いと思ひ、マックス・ガブリエルというドイツの新進気鋭の哲学者の説を一部をご紹介します。ガブリエルは、混沌などはなくパンデミック後の新社会は倫理観が政治や経済と共にある倫理資本主義が到来するとしています。この社会は人間が相互に尊重し合う社会ということができ、2019年までの唯物的な尺度が優先する量的な政治、経済で格差が広がる社会ではなく、何よりも量より質が優先されるとします。質が優先される社会においては単に統計学的な量で物事は把

握されず「何故？」という理由が最優先されます。

つまり、何月何日の感染数は昨日より多い、少ないではなく、何故、昨日より多いのか、少ないのかというように一つ一つが特殊なケースとして取り扱われ、理由が追及されるのです。

当然、社会を構成する私たちの人間関係においても「何故？」が問いただされます。つまりこれに応答するために「考える」ことが必要になるのです。考えるとは物事を把握することですから、正しく把握することもあり、間違っでは把握することもあります。では正しく把握するための方法はあるのでしょうか。勿論人間は「デウス」ではないので完全はありませんが、正しい把握を多くする方法論の一つは倫理的価値観をスケール化することではないでしょうか。

YMCA は、青少年に対して社会教育を通して倫理的な価値観を100年以上にわたって連綿と伝え続けて来たのではないかと思います。今日の、YMCA ステートメントに「繋がる」、「良くなっていく」は価値教育の実在化でもあると思います。すべての人々が繋がりをもって、相互に気遣いながら倫理観という均衡の中心点を持ってバランスを取りながらの生きることがSDGsの実現にもつながっていくのではないかと思います。

2021年4月例会

出席報告

在籍会員 8名

例会出席 8名(内 2名インターネット)

メネット 0名

ゲスト 1名

ビジター 6名(札幌北クラブ)

出席者合計 15名

出席率 100%

札幌ワイズメンズクラブ 2021年5月例会

日時：2021年5月18日（火） 18:20:30

会場：北海道YMCA101 教室

札幌市中央区南11条西11丁目

Tel. 011-561-5217

会費：1,000円

プログラム

- | | | |
|-----------------|---------|-------|
| | 司会 | 柴田 伸俊 |
| ① 開会点鐘 | 札幌クラブ会長 | 宮崎 善昭 |
| ② ワイズソング、ワイズの信条 | | 全員 |
| ③ 今月の言葉 | | 伏木 康 |
| ④ 会長あいさつ | 会長 | 宮崎 善昭 |
| ⑤ 誕生日 | 2 | |

- | | | |
|-------|-------|--------|
| 結婚記念日 | 5月3日 | 宮崎 善昭 |
| | 5月6日 | 柴田 邦子 |
| | 5月16日 | 宮崎 由美子 |
| | 5月18日 | 秋葉 康子 |
| | 5月26日 | 北川 佳治 |
| | 5月28日 | 伏木 康 |

⑦ 卓話

リーダーOB・OG

「求めるユースクラブを語る」

YMCA ユース担当： 木田貴浩

OB・OG： 高橋、吹田、坂東

総合司会： 伏木 康ユース事業主査

- ⑨ 諸報告
- ⑩ YMCA 報告 YMCA 担当主事 北川佳治
- ⑪ 今月の歌

「鯉のぼり」

秋葉聡志選



- ⑫ 閉会点鐘 会長 宮崎 善昭

札幌ワイズメンズクラブ4月例会

日時：2021年4月20日（火） 18:30~20:30

場所：北海道YMCA101 号室

出席者：秋葉、北川、柴田、中田、伏木、宮崎
(internet 参加) 小野、安田

ゲスト： 木田 (YMCA ユース担当)

ビジター：札幌北クラブ 6名

小谷、工藤、熊、佐藤、高杉、義村
出席者合計 15名

来期から東日本区も法人化することになりました。法人化への学びを深めようと札幌北クラブも参加して勉強会を開きました。宮崎会長が講師となり、▼何故今、法人化が必要なのか、▼法人化の利点、それを如何にワイズの将来に向けて活かしていくべきかを学びました。

続いて、YMCAユース担当の木田スタッフから卒業してゆくリーダーOB、OG たちが社会に出た後もYと繋がり、出来る範囲での奉仕をすることが出来るように「ユースクラブ」を創りたいという提案があり、種々議論の結果、ユースの熱意に応え、札幌Yだけでなく、北海道全域をカバーするユースクラブの立ち上げを支援してゆくことになりました。

1年ぶりに(?)北クラブとの交流も出来、ユースの明るい未来も見えて、有意義な例会でした。

(p. 3 参照。)

札幌ワイズメンズクラブ3月事務会

日時： 4月27日（火） 19:15~20:00

場所： オンライン会議室

出席： 宮崎（長）・小野・伏木・中田・秋葉・北川

1. 5月例会・事務会について

【例会】

日時： 5月18日（火） 18:30~19:30

場所： 札幌YMCA+オンライン

内容：

- ① ユースリーダーOP を交えての
ユースクラブ意見交換
- ② 女性シュルターアジール
事務局長波田地利子さん（卓話）
※第1候補が難しい場合、第2候補で調整
会費： 1,000円（弁当持ち帰り）

【事務会】

日時： 5月26日（水） 19:00~ オンライン

2. ブリテン5月号分担 添付別紙分担表の通り
3. 今後の予定

① YMCA チャリティラン

6月開催に延期~オンライン開催の予定

② 5月例会5月18日(火) 事務会 5月26日(水)

※事務会は会長の都合により日程変更となります

③ 東日本区大会 6月12日（土）オンライン開催
ホストクラブ：甲府21ワイズメンズクラブ

③ 6月例会 6月15日(火)事務会 6月22日(火)

何故この言葉を 伏木 康

数年後に1万円札の顔が渋沢栄一に切り替わる。
飲食、観光業界など、コロナ禍で厳しい業界でも、
日々新たなことにチャレンジし、健闘している企業も
多い。この名言は、そのような行動を応援しており、
共感できる」

4月例会卓話 「東日本区法人化状況報告」 札幌クラブ会長 宮崎善昭 全員協議 「北海道ユースクラブ設立について」 出席者全員



東日本区は2013年から「法人化」の検討を継続してきた。2019年宮内理事が「法人化の再検討についての小委員会」、2020年11月の「東日本区法人化準備委員会」で審議を重ね、板村理事年度末（2021年6月末）の代議員会での最終決定を目指すこととなりました。

現在、東日本区は任意団体として活動していますが、会員減少、高齢化で10年後、20年後は存亡の危機を迎えています。また社会情勢も大きく変化してきました。YMCAのサービスクラブとして活動するためには、社会的にも認められYMCAに対応できる存在であることが必要です。認知度を上げるだけでは十分ではありません。

行政も個人もサービスクラブが単に善意の任意団体であるばかりでなく、責任ある団体であることを求めています。そのため、ボランティア団体も多様化が進み、法人格を取得し、選ばれる時代になっています。

東日本大震災においても、ワイズメンズクラブは被災地では認知度が低く、行政への手続き、要請などは法人格を持つYMCAの名義を借用せざるをえませんでした。

法人格を取得することにより、次のような利点が考えられます。

- ① 財産管理が個人名義から法人自体の管理・運営となり財産管理の明確化と安定化、
- ② 行政や他団体の関係において法人として対等とあり、認知度もアップし、
- ③ 補助金や助成金の確保も容易となり、

入会候補者の不安も払拭され、会員増強に資する。

2020年11月に発足した「東日本区法人化準備委員会」が議論を重ねた結果、法人は「一般社団法人」が最適であることの結論に達しました。

今後は、東日本区は一般社団法人定款によって運営され、予算、決算は公益法人会計により所轄都道府県に届け出なければならなくなりますが、各部、クラブ運営は現行通り東日本地区定款に則って行うことになるので、クラブ活動は、法人移行後も何ら変わることなく継続していくこととなります。

今後の、認可に向けてのスケジュールとしては4月下旬にはYMCA同盟に説明し了承を得て、6月12日開催の東日本区代議員会の承認を得、6月下旬には法務局に登録することを考えています。

今、ワイズメンズクラブは創立100周年に向けて、国際では「Challenge 22」、東日本区では「Change!2022」が展開されています。そして私たちは人類史上経験したことのない新型コロナウイルス禍によって社会のシステムは大きく変動しようとしています。私たちはワイズメンズクラブのミッションを遂行するためには、社会の変化を怖れず、柔軟・果敢に対応していかなければなりません。そのための第一歩がこの「法人への転換」なのです。

北海道ユースクラブ設立について



ユースクラブ(仮)設立については、懇談としてYMCAユース担当の木田スタッフから、リーダーOB・OGが組織化を図り今後YMCAに連なるために、既に長年にわたり連携関係のあるワイズメンズクラブと協働する機会や場がないか

という提案があり、話し合いの結果、既存のワイズユースクラブではなく、別の形の緩やかな連携を保った外郭団体としての協働の在り方などを今後話し合っていく機会を作っていくこととなりました。

担当は、伏木会員として今後YMCA木田スタッフと日程調整し早期の内にユースの代表との懇談の機会を持ちたい旨、話し合いました。(宮崎記)



左：札幌北クラブ
前列左から、
佐藤、高杉、小谷会長
後列左から、
工藤、熊、義村

右：札幌クラブ
前列左から、
宮崎会長、中田、木田
後列左から、
柴田、伏木、秋葉、
北川
背景：リモートで
小野、安田

YMCAニュース 担当主事 北川 佳治

北海道部第2回評議会・次期役員研修会報告

① 全道職員研修報告

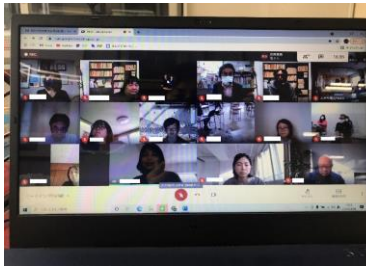
5月1日(土)に北海道YMCA(札幌・北見・とちか帯広)全職員を対象とした、研修会を開催しました。

今年のテーマは、「YMCAのSDGsを発信しよう」でした。北海道YMCA中期計画2023(4ヶ年:2020-2023)並びに2021年度北海道YMCA事業方針計画の一つに示されている「YMCAミッションとSDGsを関連付け、わかりやすく表出していく」を遂行するため、このテーマに関する学びを深めました。



また、今回は、各ブランチおよび個人をオンライン(Googlemet)で繋いでの研修となりました。従来は、片道200km前後の道のりを各ブランチスタッフが車で移動し、一堂に会する形での研修でありました。オンラインという、1年前までは想像もしていなかった方法での開催となりましたが、時間的・体力的・経費のコストの負担が減った部分では良い面も多かったです。

例えば、SDGsの理解を深めるための基調講演を、大橋正明さん(聖心女子大学文学部教授)に道外からオンラインでご講演いただきました。また、他YMCAのSDGs事例報告として、菅田斉さん(YMCA阿南国際海洋教育センター所長)、阪田晃一さん(神戸YMCA余島キャンパス所長)に各拠点よりオンライン参加いただきました。過去に3名ものゲストが単日研修に関わっていただいたことはほぼ無く、北海道YMCAスタッフの学びもその分、大きく深まったと思われます。



対面式の研修は、一方で、様々なコストはかかりますが、それでも、YMCAスタッフにとっては、やはり必要なものであることは間違いないと考えます。

今後の全道職員研修および各種日常研修は、オンラインと対面との選択を柔軟に行い、より良い学びに繋がられるようにしていきたいものです。

② YMCA インターナショナルチャリティーラン 延期のお知らせ

北海道では例年5月に開催しております、インターナショナルチャリティーランにつきまして、今般の新型コロナウイルス感染症拡大を鑑みまして、6月以降に延期致します。

開催日程が確定しましたら改めてお知らせ致します。



4月26日(月)19:00~21:00 オンラインで開催されました。参加者12名、第2回評議会の議案は、

第1号 2020-2021年度北海道部中間報告、
第2号 北海道部中間決算報告があり承認されました。

第3号 次年度北海道部大会・評議員会の日程、ホストクラブについては、

◆開催日:2022年2月19日(土)

◆会場:鹿追町天然別湖畔ホテル風水、

◆ホストクラブ:十勝クラブ、

その間の評議員会については原則オンライン会議とすることが承認されました。

次に第4号議案 YMCA 支援については、北海道YMCAを支援する目的で300,000円を寄付することが承認され、北海道YMCAより6月開催予定のチャリティーラン運営に使用したいという提案があり合わせて承認されました。

次に次期役員研修会があり、次期東日本理事の大久保知宏氏(宇都宮クラブ)より基調講演がありました。

国際会長、アジア太平洋地域会長の主題、スローガンの説明後、次期理事の主題、スローガンの説明があり、重点課題として

- ① 東日本地区法人化
- ② 新生活様式にあったクラブ運営、
- ③ 新しい組織の検討

が挙げられ説明がありました。各クラブ会員の維持のために東日本地区としてできることをしていくとして締めくくられました。(宮崎紀)

ノア・ハラリ と マックス・ガブリエル

(巻頭言に登場する2名の学者の紹介)

ノア・ハラリ: 1976年生まれの哲学者。オックスフォード大学で中世史、軍事史を専攻し、博士号を取得。「サピエンス全史」「ホモ・デウス」「21 Lessons」はいずれも世界中で大ベストセラーになっている。

マックス・ガブリエル: 1980年生まれのドイツの哲学者。ボン大学教授。25歳で博士号取得。英語、ドイツ語、フランス語は勿論、中国語まで自在に操る。メタ存在論、メタ形而上学というカント以来の伝統の復活を目指していると本人は言っています。

(何を言っているのか全く分かりません。これ以上詳しくは宮崎会長にお聞きください。)

ワイズの信条

1. 自分を愛するように、隣人を愛そう。
2. 青少年のためにYMCAに尽くそう。
3. 世界的視野をもって、国際親善をはかろう。
4. 義務を果たしてこそ、
権利が生ずることを悟ろう。
5. 会合には出席第一、
社会には奉仕第一を旨としよう。